

令和8年度 通信教育実施計画

松陰高等学校（本校／各学習センター）

教科	科目	単位数	履修上の留意点		
地理歴史	歴史総合	2	必修科目		
指導目標	(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
	(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
教科書		副教材等		添削指導	面接指導
新選 歴史総合				6回	2単位時間
多様なメディアを利用した学習による 面接指導時間数の減免実施の有無		☐ 実施している ☒ 実施していない	多様なメディアを利用した学習による減免後の面接指導時間数		該当なし
添削指導（レポート）					
回	学習内容			対応する 面接指導の回	提出期限
1	18世紀のアジア・ヨーロッパにおいての国際関係、世界市場の形成について理解する。 19世紀、イギリスの「産業革命」をへて、社会にどのような変化が起きたのか理解する。			1	5月13日
2	市民革命が生み出した社会の仕組みの変容について理解する。 19世紀のアジア諸国の変容、および明治維新と東アジアの国際関係について理解する。 帝国主義と植民地について、それぞれの国の立場や状況を整理する。			1	6月6日
3	第一次世界大戦の背景と経緯を理解する。 アジア各地の植民地主義の高まりと民族運動の拡大について理解する。 第一次世界大戦時の「総力戦体制」や、戦後の世界各国の変容について理解する。			1	7月4日
4	世界恐慌とファシズムの進展、および国際協調体制の崩壊によって、第二次世界大戦が発生した経緯を知る。 戦後の国際秩序のもとで、日本の占領政策はどのように変化したのか整理する。			2	10月21日
5	冷戦の拡大と核兵器の管理、および脱植民地化の進展について理解する。 先進国の経済成長と地域連携、ベトナム戦争について理解を深める。 第二次世界大戦後の急激な経済成長がもたらした影響についてまとめる。			2	11月11日
6	石油危機と経済の自由化が、世界経済と人々の生活に及ぼした影響について理解する。 冷戦の終結と地域紛争への解決に向けて国際社会はどのように対処してきたか理解する。			2	12月5日
面接指導（スクーリング）					
回	単位時間	学習内容		実施場所	実施日
1		世界が近代化に向かって大きく動く18世紀から19世紀に、アジアとヨーロッパの間でどのような国際関係が築かれていったのかを学習する。 市民革命によって社会の仕組みが変わり、国民国家の樹立が目指され、ナショナリズムと自由主義の運動が革命や独立運動につながったことを学習する。 ロシア革命による社会主義の拡大や米国の大衆文化・資本主義の発展を学ぶとともに、戦後のアジア・アフリカでの民族運動の高まりと、欧米・日本における普通選挙の確立など民主主義の発展を学習する。 第一次世界大戦が国力をつぎ込む総力戦であったこと、戦後はヨーロッパでヴェルサイユ体制、アジア・太平洋でワシントン体制という新しい国際秩序が形成されたことを学習する。		各学習センター	5月
2		世界恐慌を機にドイツ・イタリア・日本でファシズムが台頭して国際協調体制が崩壊し、その対外膨張によって日中戦争や第二次世界大戦、アジア太平洋戦争へと発展した過程を学習する。 戦争終結の流れと戦後構想について学習する。戦後、敗戦国の日本やドイツなどで連合国による占領政策が実施されるなか冷戦がおこり、冷戦下で中国・朝鮮・ベトナムなどは分断される形で再編されていったことを学ぶ。 冷戦終結後の世界的な民主化やグローバル化、地域統合の進展を学ぶとともに、格差拡大などの負の側面による民主主義の動揺を理解し、持続可能な社会の構築への模索について学習する。 冷戦期の「雪どけ」や第三世界の台頭、核・地域紛争の危機を学ぶとともに、戦後の経済政策や南北格差、日本の55年体制確立と外交正常化を学習する。		各学習センター	11月
多様なメディアを利用した学習					
計画段階では実施予定なし					
試験					
回数	試験範囲			実施場所	実施日
1	レポート1～3			各学習センター	9月
2	レポート4～6			各学習センター	2月
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準					
添削指導、面接指導、試験の結果を総合的に評価する。					
所定の添削課題の提出、面接指導の受講、試験の受験を満たし、学習成果が認められる場合に単位を認定する。					
その他					
各学習センターでは、本校の通信教育実施計画及び指示に従い実施する。施設状況や生徒の状況等に応じて日程・実施方法を調整する場合も、本校の承認又は指示のもと、指導内容・評価・単位認定基準に変更が生じない範囲で対応する。					